第8編

鹿児島市立病院年表

											昭和	年号
	23	22		21					20	16	15	年
10 9	5	7	9	7	12	8	7	6	4	4	4	月
医師修練病院に指定 病床数160床 医療法第7条による病院開設許可 病床数160床 加治屋町に病院移転完了、診療を開始 加治屋町に病院移転完了、診療を開始 過期額料を開設 診療科目8科	開設 診療科目7科	歯科を開設 診療科目6科	鹿児島市尋常小学校跡地(山下町)に病棟を建設(病床数50床)、診療を開始	各科診療を開始(内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科)	佐々木武男医博 第二代病院長に就任	尾畔(伝染)病院にて診療を継続、その後更に鹿児島市役所の一隅に仮診療所を開設	野元医院空襲により焼失	民間病院(上竜尾町野元医院)を借用して診療を継続鹿児島大空襲により病院全壊	トラホーム診療所、尾畔(伝染)病院を合併し、病院事業を再編成する。鹿児島市立病院に改称 初代病院長松本正己医博	武町支所を閉鎖	容)南林寺町1番地の診療所を本所とし、武町に支所をおく。紀元2600年事業として鹿児島市社会事業協会経営の実費診療所を買収して市立診療所とする。(病室約20人収鹿児島市立診療所発足(初代所長松本正己医博	事項

33		32	30	29	28			27		26		25
10 8	9	8	2	12 4	4	9	7	5 4	6	3	10	4
基準看護及び基準給食を開始市立病院附設准看護婦養成所を閉鎖	許可病床数314床(一般159床、結核155床)	コバルト60による治療開始総合病院としての承認を受ける	許可病床数290床(一般135床、結核155床)	許可病床数276床(一般105床、結核171床)結核病棟に完全看護を実施	中央材料室を設置 尾畔病院の所管を保健所に移管	許可病床数210床(一般105床、結核105床)	を併設	許可病床数196床(一般91床、結核105床)市立病院附設准看護婦養成所を開設	許可病床数123床(一般91床、結核32床)	入院患者への完全給食を実施	許可病床数104床(一般80床、結核24床)	皮膚泌尿器科を開設 診療科目9科

_		39				38			37			36		35	
5	4	3	6	4	2	1	11	6	3	6	4	3	9	3	12
県下初の新生児血交換(Rhマイナス)に成功	地方公営企業法の財務規定等適用	尾畔(伝染)病院新築(伝染60床)、城西病院と改称	基準寝具を実施	許可病床数380床(一般260床、結核100床、産院20床)市立産院本院内に移転(20床)	第二期病院改築工事(2号館)完成	許可病床数360床(一般260床、結核100床)	妊婦ドック指定病院に指定	物療室を開設	第二期病院改築工事(2号館)着工	一一一鉄の肺」を設置	上高原勝美医博 第三代病院長に就任	第二代病院長 佐々木武男退任第一期病院改築工事(1号館)完成許可病床数360床(一般222床、結核138床)	短期人間ドックを開始	第一期病院改築工事(1号館)着工	

	47	46	45		44		43			42	40	
4	3	3	1	4	1	4	3	12	7	4	4	7
医師法に規定する臨床研修病院の指定を受ける	患者治療及び浴用として温泉掘削(深さ747m、泉質弱アルカリ食塩泉、温度摂氏49度)	第一次病院整備事業2号館5・6階増築完成第一次病院整備事業本館建築着工第一次病院整備事業本館建築着工第一次病院整備事業本館建築着工第一次病院整備事業本館建築着工。 (救急ベッド50床に) 新可病床数470床(一般350床、結核100床、産院20床)	第一次病院整備事業構想決定	鹿児島市立病院労働組合結成上高原勝美・初代病院事業管理者に就任上高原勝美・初代病院事業管理者に就任地方公営企業法の全部適用とする	第三内科(循環器科)を開設 診療科目12科	頭部外傷救急センターを設置(病床数30床)	許可病床数410床(一般290床、結核100床、産院20床)	基準改正に伴い、一般病棟に一類看護、結核病棟に三類看護を実施	脳神経科を開設 診療科目11科	リニアックによる治療を開始	中央手術室を設置 診療科目10科	救急病院の指定を受ける

51	50			49					48			
1	7 1	10	6 5	4	11	10	9	5	4	12	11	5
五つ子(山下ベビー)誕生(男子2人、女子3人 体重990g~1800	不妊クリニックを開始、基金請求、診療案内及び計算補助業務を民間委託入院部門レセプト作成、基金請求、診療案内及び計算補助業務を民間委託	中央カルテ管理室を設置	人工透析部を設置いこいの森完成	2号館の1、2、4階を高等看護学校へ鹿児島市立高等看護学校開校(三年課程、1学年30人)	第二内科(消化器)、整形外科を開設 診療科目15科	許可病床数470床(一般410床、結核40床、産院20床)結核病床60床を一般病床へ転床	第一次病院整備事業本館低層部完成頭部外傷救急センターを脳疾患救急部に改組	外来患者診療時間を原則として午前診療とする新患受付、外来部門レセプト作成業務を民間へ委託	一般病棟を特類看護に、結核病棟を一類看護に変更病棟看護婦の二・八制勤務完全実施中央研究検査室、中央放射線室を設置	皮膚泌尿器科を皮膚科、泌尿器科に分科 診療科目13科	第一次病院整備事業本館高層部完成	歯科に口腔外科を設置

55					54			53			52		
3	11	9	8	4	2	11	9	8	10	8	4	11	4
五つ子誕生(男子2人、女子3人、体重1400g~1975g)	許可病床数541床(一般481床、結核40床、産院20床) ICUに9床、CCUに2床を増床	第三次病院整備事業(4号館)着工	中央回復室を設置理学療法室の整形外科所管を解き、中央理学療法室に改組する理学療法室の整形外科所管を解き、中央理学療法室に改組する	許可病床数530床(一般470床、結核40床、産院20床)分娩センターに20床増床	産婦人科病棟に周産期医療センター(分娩センター)を設置	周産期医療センター(新生児センター、母子保健指導部)を設置許可病床数510床(一般450床、結核40床、産院20床)新生児センターに40床増床 脳疾患救急部を脳疾患救急センターに改称	第二次病院整備事業完成	院内を禁煙とし、本館1、2階待合ホールに喫煙コーナーを設置	第二次病院整備事業(3号館)着工	コンピューター付X線頭部断層診断システムを導入	城西病院(伝染病院00床、旧尾畔病院)の運営について市と覚書を締結し管理運営を本院において受託する	プロジェクトリーダー、産婦人科部長 外西寿彦 五つ子プロジェクトチーム、第27回南日本文化賞受賞	一般病棟を特二類看護に、結核病棟を特一類看護に変更

4	3	60	11	7	59	5	58	8	4	57	4	56	4
時任純孝 第二代病院事業管理者に就任	上高原勝美 初代病院事業管理者退任	許可病床数641床(一般581床、結核40床、産院20床)救命救急センターを設置30床増床 形成外科を開設 診療科目16科 内科を内科、消化器科、循環器科に分科	中国長沙市研修生第一回受入れ(趙 国祥、何 国強)	第三内科(循環器科)24時間救急体制発足	病理研究検査室を設置	許可病床数611床(一般551床、結核40床、産院20床)小児科に50床増床	看護婦寄宿舎新築完成慈愛像除幕式	医事業務(入院)電算システム導入	薬品在庫管理電算システム導入	電算システム導入に伴う電気設備その他工事竣工	許可病床数561床(一般501床、結核40床、産院20床)周産期医療センター(新生児部門)に20床増床	第3次病院整備事業(4号館)完成	コンピューター付X線全身断層診断装置導入

		63			62					61				
5	4	1	10	6	2	11	10	8	7	4	12	11	6	5
医療相談コーナーを設置	小児外科を開設 診療科目17科	死体腎移植を実施	中国長沙市研修生第五回受入れ(黄 閔、張 艷青)	九州初の体外受精に成功~産婦人科(伊集院秀明、寺原賢人、榎園祐二、堂園光一郎、楠元博彦の医師スタッフ)病院検査及びカルテ管理を電算化病院駐車場を有料とする	中国長沙市研修生第四回受入れ(王 一欣、陳 斉国)	自治体立優良病院の表彰を受ける 全国自治体病院開設者協議会 (社)全国自治体病院協議会	死体腎移植組織協力病院の指定を受ける((社)ジン移植普及会)入院患者面会時間を変更(午後3時から午後8時まで)	日帰り人間ドックを開始	鹿児島市立病院友好訪問団 長沙市を訪問 団長 時任院長 外3人 期間7.28~8.4中国長沙市研修生第三回受入れ(何 小蔀、唐 元泙)	入院患者給食の夕食を6時給食とする	第二例目の腎臓移植手術を本院スタッフのみで実施	中国長沙市研修生第二回受入れ(符 嶺華、余 暑純)病理研究検査室に電子顕微鏡を導入	栄養管理業務の一部を電算化	8人で構成するグループが無菌手術室で実施東京女子医科大学腎センターの太田和夫教授の指導を受け、伊集院一成外科科長ら医師15人、麻酔科4人、看護婦南九州初の腎臓移植を行う

														1		
												平成	年号			
5			4			3			2			元	年			
3	4	3	1	10	4	2	11	4	3	10	5	4	月		9	7
体外衝擊波結石破砕装置導入	外西寿彦 第三代病院事業管理者に就任	MRI導入 時任純孝 第二代病院事業管理者退任	中国長沙市研修生第九回受入れ(張 莉、王 敏)	救急新体制の本格稼動	許可病床数661床(一般601床、結核40床、産院20床) 救命救急センター後方ベットとして20床増床	救命救急センター棟完成	中国長沙市研修生第八回受入れ(彭善敏球、謝善宏)	救命救急センターを救急部に改称	オーダリングシステム一部(処方オーダー)稼動開始	中国長沙市研修生第七回受入れ(載 月梅、張 憲南)	麻酔科 外来診療開始	心臓血管撮影装置導入	事項		鹿児島市立病院友好訪問団 長沙市訪問 団長 大司総看護婦長 外4人 訪問期間9.28~10.9	中国長沙市研修生第六回受入れ(馮 飛、孫 長立)

9	8		7						6				
1	3 1	3 2	1	11	10	8	5	4	3	9	8	7	4
給与管理システム導入	骨密度測定装置導入全土曜日の外来診療を休診とする	高気圧酸素治療装置導入阪神・淡路大震災医療活動応援隊第二陣・第三陣派遣	阪神・淡路大震災医療活動応援隊第一陣派遣	立体駐車場(第三駐車場)完成(111台収容)	特三類看護へ移行(579床)	防潮施設整備工事完成	特三類看護へ移行(354床)	外西文庫開設 外西文庫開設 外西文庫開設 外西文庫開設 外西文庫開設 年1、結核40床、伝染20床、産院20床) 年2、第4土曜日の外来診療を休診とする。	5号館完成	13号台風災害	8. 6豪雨災害	5号館着工 外西寿彦 第三代病院事業管理者に就任 水西寿彦 第三代病院事業管理者逝去	中国長沙市研修生第十回受入れ(黄 紅光、王 西香)

	15	14	13	12	11	10					
7	3	9	7 2	10 2	4	7 5	10	5	4	3	2
全国自治体病院協議会九州地方会議開催	リニアック治療装置更新	中央回復室を中央集中治療室に改称	谷口良康 第五代病院事業管理者に就任武 弘道 第四代病院事業管理者退任 新生児専用ドクターカー導入	許可病床数687床(一般621床、感染6床、結核40床、産院20床)周産期医療センター(新生児部門)に20床増床外来待合所喫煙全面禁止	許可病床数667床(一般601床、感染6床、結核40床、産院20床)感染症病床6床設置	心臓血管外科を開設 診療科目20科自治体立優良病院の自治大臣表彰を受ける	ム 導入	基幹災害医療センターの指定	院内学級設置 歯科口腔外科、リウマチ科を開設、診療科目19科病院モニター制導入	高気圧酸素治療装置増設、全身用X線コンピュータ断層診断装置増設	血管造影撮影装置更新

19						18			17	16	
1	12	11		10	4	3	10	7	3	4	10
小児科看護7:1体制導入 新生児集中治療室(NICU)4床増床 発達支援集中治療室(DICU)10床開設	臨床心理室開設新生児外来開設	救命救急センター内CT装置導入	物流センター開設	第45回全国自治体病院学会開催	市立病院あり方検討委員会設置後期臨床研修制度整備	鹿児島市立高等看護学校閉校体外衝撃破砕装置更新	総合血液学検査装置更新電算システム更新	上津原甲一 第六代病院事業管理者に就任谷口 良康 第五代病院事業管理者退任ホルミニウムレーザー装置導入	電子顕微鏡システム更新	ME機器中央管理室を設置新医師臨床研修制度発足	県内初(九州2例目)脳死下での臓器提供自動再診受付機・診療費自動精算機稼働開始

					21					20					
12	10	5	4	3	1	9	6	5	3	1	11	10	8	7	4
ウォークイン外来開設	乳房用X線診断装置更新	自治体立優良病院の会長表彰を受ける 新型インフルエンザ発熱外来設置(平成21年8月休止)	 外来化学療法室の設置 DPC導入 DMAT指定病院 組織変更(病院建設室の設置等)	画像情報システムPACS導入	鹿児島市立病院基本設計プロポーザル審査委員会設置	小児科外来移転開設	カリフォルニア大学アーバイン校医学部との交換留学制度協定締結	新病院建設プロジェクト会議設置	臨床化学免疫連結型自動分析装置 1台更新鹿児島市立病院基本構想・基本計画策定	脳卒中センター開設	総合周産期母子医療センター開設	臨床化学免疫連結型自動分析装置 1台更新SCU(3床)開設	母体・胎児集中治療室(MFICU)(6床)開設		鹿児島市立病院基本構想・基本計画策定委員会設置10:1看護体制導入医療安全管理室、医療連携室の設置組織変更(総務課計画係の設置等)

				24						23						22
10	9	7	2	1	12	10	7	6	4	3	11	7	5	4	3	2
GCU (6床) 開設	宮崎県立宮崎病院との災害時における医療機関相互応援に関する協定締結 新病院建設工事着工	院外処方への移行	新病院建設事業用地購入(上荒田町37番1)	リモートアフターローディング治療装置更新	鹿児島県ドクターヘリ基地病院として運航開始	鹿児島市医師会病院との大規模災害発生時の相互支援協定締結	鹿児島県小児救急医療拠点病院指定	新病院実施設計	地域がん診療連携拠点病院指定	東日本大震災被災地へDMATおよびJMAT派遣	頭部用X線CT装置導入病院機能評価認定	病院機能評価受審全国自治体病院協議会九州地方会議開催	自治体立優良病院の総務大臣表彰を受ける	敷地内全面禁煙へ移行許可病床数(一般641床、感染6床、結核40床)許可病床数(一般641床、感染6床、結核40床)	新病院基本設計	磁気共鳴画像診断装置3.0Tに更新

					27				26						25	
11	10	8	5	4	3	10	4	3	1	12	8	7	6	4	3	12
鹿児島大学医学部・歯学部附属病院との連携協定締結	病院機能評価3rdG:Ver1.0受審旧病院解体工事着工	初診紹介患者の予約制の拡充	入退院センター設置診療科再編、精神科新設、許可病床数574床(一般568床、感染6床)移転開院	完成記念式典	血管造影撮影装置、手術画像配信システム、磁気共鳴画像診断装置、リニアック治療装置導入全身用X線CT装置(80列・320列)、X線CT組合せ型血管造影装置、X線CT組合せ型核医学用診断装置、新病院完成	鹿児島市高度救急隊(ドクターカー)基地病院として運用開始	看護科二交代制勤務導入	双胎間輸血レーザー装置導入	全身用X線CT装置の更新	電子カルテシステムの導入	坪内 博仁 第七代病院事業管理者に就任	上津原甲一 第六代病院事業管理者退任	7:1看護体制導入	九州7県の自治体病院との災害時における医療機関相互応援に関する協定締結	鹿児島市病院事業経営計画策定	心臓血管造影装置の更新

30
3
DPC特定病院群の指定地域医療支援病院に承認地域医療支援病院に承認乳房X線撮影装置更新

りを見るのが 巻く人々の肩越しに、 しようと多くの県民、 雑誌、 和 51年5月12日午前、 週刊誌の記者、 目的 だった。 背伸びしながらのぞいたことを覚えている。東京から押し掛けた全国紙、 市民が集まった。 鹿児島市加治屋町の市立病院正面玄関口に山下家の五つ子ちゃんの退院を祝福 カメラマンなどのなか、駆け出しの地方紙記者として、 「元気でね」など大歓声の沸き起こる退院シーン。 地元記者たちの取材ぶ 幾 重 に テレ ピ ŋ

より」、 院内で既に始まっており、 より」、 になることもなく、 伝いをすることになったのが、平成29年夏だった。五つ子ちゃんの感動以来、幸い いたのか。 市立病院の名声を一躍 新聞 院内向けの 無知に近い状態だったが、それについての好奇心はたっぷりあった。 の切り抜き、 「河畔」のほか、複数の出版物が加わった。「河畔」等の一部欠号は残念だったが、 お見舞い以外は電車通り側からいつも眺めていた。 写真、 「全国区」に引き上げた出来事から40年余り。『鹿児島市立病院史』 定年退職者らに呼び掛けての資料収集が行われていた。 パンフレット等々。これに病院に残る「病院年報」、「鹿児島市立 その後の病院内外で何 発刊につ 集まった古 にも市立病 いて 続巻の į, ί 0) 院 が起こって 準備 職 に 前院だ お世話 は、 お手 員だ

の後も担当者らの資料集めは地道に続い

た。

俊市長 避 が 理想である。 M ぶようだ。 掛け合うもの 7 死で汲み出していた。 0 お 道に見立てれ 的 ,難 時 AT等を出 年 おまかな 40 した 年近くの資料を目にするなか、 その意味では、 に 0 の対応が をできる限り明 (は鹿 聞いてあげられる人の存在が必要」 阪 い 「8·6水害」 同 で 児島県出身でもあり、 神 イメージとしてはこのようなものだ。 Ó, ば、 動させた。 23 市立病院 V そのた く。 年 淡路大震災」。 現場が混乱してなかなか実現しない。 0 事項」は線路上の途中駅に当たるのだろうか。 確 8 病院の待合室や図書室で、読者が何気なくめくったページをすぐさま理解 さらに列車の進行を見守る県民、 「東日本大震災」では、 当時(以下同)の武弘道院長は !内の当時の雰囲気を示していたのだろう。 出 にして、 では、 来 DMATとして派遣された野田真里看護師 事の説明をコンパクトにする 市民へのおにぎりの炊き出しをする一方、 発生直後から 新聞などの記録に残る関係者の肉声もなるべく入れることを心掛けた。 是非協力させてほしい」と迫る。 自然災害時に立ち向かう病院の姿は、 と痛感する。 これまでの体験を踏まえて市立 「救護隊を出したら」との 歴史本は時間的、 市民 「職員の一丸ぶりには感嘆した」と話し 業を煮やした稗田正 一方、 同28年の の間で話題になったニュ 出来事 平成5年の夏、 これに沿って、 「熊本地震」。 電話 は 根気的にも通読する の基本となる 「被害者しか 話 口で が 職員は病院に流 特に印象的だった。たぶ 2起こっ 病院 の事務 事務局 ドク は 市 初巻以降 長は た病院 民百 わ 局 ース等を肉 「いつ、どこで、 タ から 素早 長 1 0 0 人 表情 神戸 では、 以上 が n な ζ D リに 込む濁流 な 紹 思 が 市 7 が か M できる 付 乗り、 神戸 思 待合室に な V けする。 V 0 い浮か ん を、 Τ か 年() だれ 市 を必 Ш 0 難 新 積 J が 幸 同 1

績集」

以来、

毎年発行されている

「病院年報」。その沿革欄に並ぶ

事

項」(出来事)だ。

病院

の歴史を鉄

県のヘリを熊本県から福岡県に飛ばすことに戸惑った。 生児搬送に奔走した平川英司医師は、熊本市民病院から九州大学病院への搬送に立ち至ったとき、 さい。責任は私が取る」と背中を押す。この言葉は、市立病院全体の声だったようにも聞こえる。 この時、 上司は 「赤ちゃんにいいことならやりな 鹿児島

屋町時代を貫く先人の精神を表しているように思える。 始まることは間違いない」と書いている。旧病院から新病院(上荒田)に移行する時期の言葉だが、 プクラスの市立病院に成長した。『第2巻』が、先輩たちの築いてきた良き伝統を引き継いでいくための ルでも診療を続けたという鹿児島市立病院は、 記録集」になることを願っている。 平成27年の「河畔」1月号に、通算15年務めて定年退職する美園俊明副院長が「数年先が見えな 何であれ常に改革することで一定レベルを維持できるもの。たぶん新病院も完成の暁 2 組 の 戦時中病院が全焼し、一時期上之原配水池トンネ 「五つ子ちゃん」等を経て、 名実ともに から改良改 九州 加治

革が い時

1 . ツ

(元南日本新聞記者 柳田英夫)

鹿児島市立病院史II

発 行 日/2019(平成31)年2月 編さん者/鹿児島市立病院史編さん委員会 発 行 者/鹿児島市立病院 鹿児島市上荒田町37番1号

制 作/南日本新聞開発センター